

2021年第2ラウンド公式予選1

大草りき選手がラストラップの攻撃でレース4のポールポジションを獲得

2021 Formula Regional Japanese Championship (フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ) の第2ラウンドが9月4日(土)にツインリンクもてぎで開幕し、45号車の大草りき選手 (PONOS Racing) がレース4のポールポジションを獲得しました。



今回の第2ラウンドでは、公式予選1と2が土曜日と日曜日に分かれて実施されるスケジュールとなり、公式予選1ではレース4のグリッドが決定しました。

15分間のセッションは5分ディレイで11時10分にグリーンシグナルが点灯し、小雨でウェットコンディションの中、各車が一斉にコースイン。まず好タイムを出したのはシリーズ参戦2年目となる古谷悠河選手 (TOM'S YOUTH) で、開始8分を経過したところで2分02秒511を記録し、暫定トップに立ちました。

一方、マスタークラスでは植田正幸選手 (Rn-sportsF111/3) がセッション前半から積極的にタイムを更新し、2分05秒540でクラストップに躍り出ました。

残り5分を切ったところで雨脚が弱まり、路面上の水の量も少なくなり始めます。このタイミングで、大草選手が一気にペースを上げて残り2分のところで2番手に浮上すると、ラストラップの攻撃でセクション1から大幅にタイムを更新。セクション2では自己ベストを出し、そのままの勢いで2分02秒238をマークして古谷を逆転。レース4のポールポジションを獲得しました。

2番手には0.273秒差で古谷選手、3番手には三浦愛選手 (ARTA F111/3) がつけました。

マスタークラスでは、植田選手が今季初ポールポジションを獲得。2番手には最終攻撃で大幅にタイムを更新した畑享志選手 (F111/3) がつけ、3番手には田中優暉選手 (ASSCLAYIndサクセスES) が入りました。

レース4の決勝は15時15分からスタートの予定で17周もしくは35分で争われます。なお、レース5、レース6の公式予選は9月5日(日)10時00分より行われます。

レース4 ポールポジション 大草りき選手コメント

「最後のアタックに入るときに古谷選手のタイムは聞いていました。もう少し攻めないといけないなと思って、『タイムを出しにいつやる!』という感じでいきました。クルマの調子も良かったので、普通に走れば良いタイムは出せると思っていましたけど、古谷選手も経験があって上手なので、彼に勝つには気合を入れていかないといけないなと思っていました。最後は逆転できて良かったです。午後の決勝も速さを出して優勝できるように頑張ります」

レース4 マスタークラスポールポジション 植田正幸選手コメント

「今回はチームのみんなの頑張りでポールが獲れました。雨が強くなることを見越して、タイヤの内圧を高めで行こうとチームが提案してくれて、早めにタイムを出していく作戦でした。それが結果的に良かったです。後半になって雨が止んできたタイミングでは、逆に苦しくなってタイムを上げられませんでした。でも、予定通り前半で出したタイムが最後まで生きてくれたので、それは良かったです。雨のレースの場合は、前の方のグリッドからスタートできる方が有利なので、午後の決勝もこの勢いで頑張りたいです」

以上